

ドル高・外貨安を招く

Q1 そもそも国境調整税とはどんな税金なのか。

A トランプ政権としての税制改革案はまだ提示されていないが、ポール・ライアン下院議長率いる連邦議会共和党は昨年より、法人税改革として国境調整税 (border adjustment tax) の導入を提起しており、最終的に議会に提出する法案について大統領府と協議中だと考えられている。

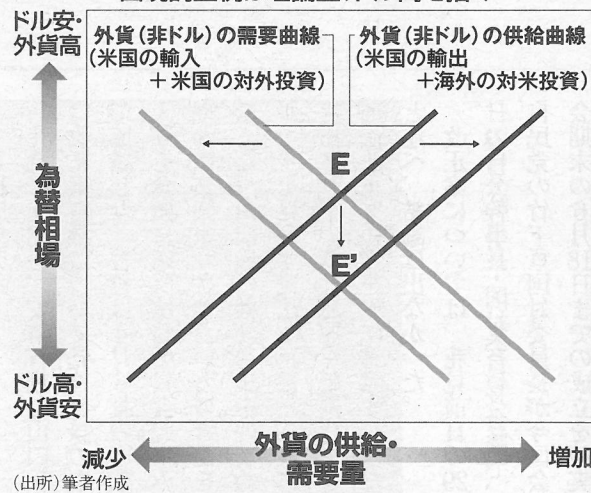
法人税率の引き下げ (現行の39%から20%程度に) と抱き合わせの税制改革のひとつで、輸入品には20%の国境調整税を課し、輸出品にはそれを免除するという内容だ。

一般的に法人税は、売り上げから費用を控除した額に課税されるが、国境調整税が導入されると、原材料・部品が輸入品の場合、費用として控除されないで課税対象となる。一方、輸出品で得た収益は課税対象から外される。輸入品に直接課税する関税とは異なり、強いて言えば、輸入品からは徴収し、輸出品には後で還付する日本の消費税に似ている。

Q2 米国にはどうという狙いがあるのか。

A 実施されれば、ドル建ての輸入価格は上昇、輸出価格は

国境調整税は理論上、ドル高を招く



価格は上昇するが、ドル高・外貨安に為替相場が変化することで外貨建ての輸出入価格への影響が相殺されるので貿易収支には影響を与えない。

Q5 仮に20%の国境調整税を導入すると、たちまちドル相場が20%上昇するということが。

A 以上の説明は単純化した説明であり、どの程度の時間をかけて、どの程度の為替相場変化が起ころかは、さまざまな他の諸要因に依存していると考えられるべきだろう。例えば国境調整税の導入で輸出企業はドル建て価格を引き下げることができるようになる。しかし、税率と同じだけ価格の上げが生じるとは限らず、それは米国輸出企業の対応に依存する面がある。さらに価格

低下するので貿易赤字は縮小、国内調達が増え、雇用も増えるだろうというもろみだ。

Q3 もくろみ通りに貿易赤字は減って、国内雇用は増えるのか。

A 主要なエコノミストはみな否定的だ。まず一国の貿易収支には国民経済計算の原理から導かれる「貿易収支＝国内民間総貯蓄－国内民間総投資 (固定資本形成) ＋政府財政収支」という恒等式が成り

Q&A 国境調整税の貿易赤字削減効果

米トランプ政権が導入を検討している国境調整税では貿易赤字を解消できないとの見方が支配的だが、なぜ解消できないのか。

たけなか まさはる
竹中 正治 (龍谷大学教授)

対外不均衡の恒等式

$Y = \text{その国の生産水準}$ 、 $IM = \text{輸入}$ 、 $EX = \text{輸出}$ 、 $C = \text{消費}$ 、 $I = \text{投資 (固定資本形成)}$ 、 $G = \text{政府支出}$ とすると、支出面から見たGDP (国内総生産) $= Y$ は次のように表される。

$$Y = C + I + G + (EX - IM)$$

($EX - IM$) は貿易収支である。政府の租税収入 $= T$ として上記の式を変形すると

$$(Y - T - C) + (T - G) - I = EX - IM$$

($Y - T - C$) は民間貯蓄であり、($T - G$) は政府純貯蓄であるから、貯蓄を (民間貯蓄 + 政府純貯蓄) $= S$ とすると

$$S - I = EX - IM \quad \text{となる。}$$

つまり、貿易収支 ($EX - IM$) の大きさは貯蓄と投資の差に等しくなる。

として考えよう。米国企業は国境調整税が導入されるとドル建て輸出価格を引き下げることができる。ドル建ての輸出取引は、外為市場の需給面で見ると

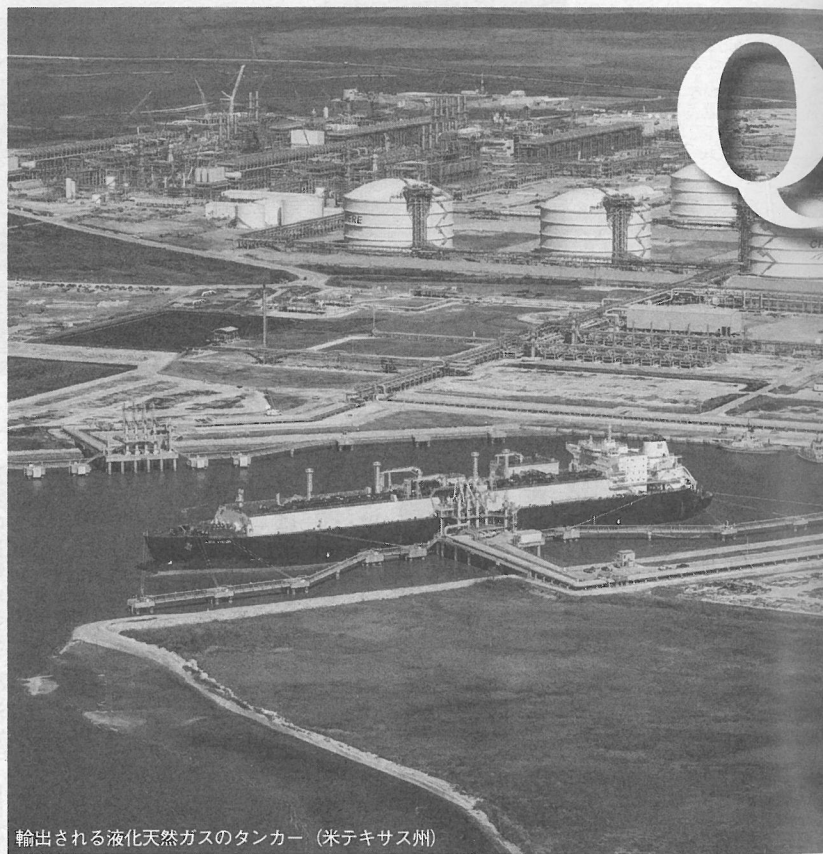
立つ (困み)。国境調整税が、免税額課税額で財政収支上中立なものとして導入されるならば、恒等式の右辺に変化はないので、貿易収支にも影響は生じない。

Q4 国境調整税で米国の輸入価格を上げ、輸出価格を下げるならば、輸入減、輸出増となり貿易収支にプラスに働くのではないか。

A 図を見て頂きたい。単純化して米国の貿易は全てドル建て

同様米国の輸入は、貿易相手の輸出サイドで代金として受け取ったドルの売り・外貨買いが生じるので外貨の需要曲線を構成する。ドル安・外貨高になるほど輸入・外貨の需要は減少するので需要曲線は右肩下がりだ。国境調整税の導入は輸入を減らすので需要曲線は左にシフトする。

以上の結果、外貨の需要・供給曲線の均衡点はドル高・外貨安の方向にシフトする (図、E' → E)。つまり、国境調整税の導入によって、米国のドル建て輸出価格は低下、輸入



輸出される液化天然ガスのタンカー (米テキサス州)

手通貨ごとに異なるだろう。

景気改善と貿易収支

Q6 米国の景気は上向いていると言われるが、この点は貿易収支にどのような影響を与えるか。

A 米国の貿易収支 (あるいは経常収支) はGDP比率で見ると、GDPギャップ、並びに実質ドル相場指数の変化と中期循環的に高い負の相関関係が見られる。具体的には、「景気の上向き」とは米国のGDP成長率が潜在的な成長率より

高くなることであり、消費が伸びて貯蓄は減り、設備投資は増える。いずれも先に説明した国内の貯蓄・投資バランスをマイナス方向 (貯蓄減、投資増) へ、つまり貿易収支減に変化させる。

同時に景気の上振れはドル金利の上昇をもたらす。海外の金利が一定ならば、内外金利差の拡大はドル相場を上昇させる。それを受けて実質ドル相場も上昇すると、短期・中期的に貿易収支の赤字を拡大させる。こうして既述の「貿易収支は国内の総貯蓄・投資バランスと等しくなる」という恒等式が維持される変化が生じると考えられる。

Q7 貿易収支の改善効果が疑問視されているのに、なぜトランプ政権と共和党は導入を検討しているのか。

A ただし直近の経済学者の議論では、現行では低税率、低賃金な生産費の低い海外地域に中間財などの一部生産を移すことで企業、あるいは産業全体の利益が増えるインセンティブが働いており、国境調整税を導入することでそうした海外移転の誘因を帳消しできるという見解も登場している。一方、同税が米国議会では法案化されても、WTO (世界貿易機関) で輸出補助金と見なされて否認される可能性もあり、先行きは不透明だ。